

「世はさまざま」 (日曜畫報 第 115 号 大正 12 年 5 月 13 日)

い 大富豪が脱税を計り 其の日暮らしの無産者が正直に所得を申告する
ろ 低能児に金があり 秀才に学費なし
は 子供が多くて泣くもあり
に 子供がなくてなくもある
ほ 夜中マンジリともせぬ金持もあるし 開ッ放して楽に寝る貧乏人もある
へ 自動車に乗る身分で家庭不和多く ドン底生活で家内円満なのが多い
世の中

「茶目と凸坊」 (日曜畫報 第 122 号 大正 12 年 7 月 1 日)

二人の腕白少年の話。茶目と凸坊のキャラクターはカルタや人形として商品化され、日本漫画における最初のキャラクター商品展開の一例となった。

「茶目と凸坊、太郎と次郎ほか」

(日曜畫報 第 122 号 大正 12 年 7 月 1 日)

「タイトルなし」

見開き (日曜畫報 第 111 号 大正 12 年 4 月 15 日)

(日曜畫報 第 121 号 大正 12 年 6 月 24 日)

城西大学では「地域社会と共にある大学」を目指し、一般の方にも大学図書館を開放しています。高校生以上の方でしたらどなたでも無料で閲覧ができます。

資料の貸出サービスが受けられるライブラリーカード会員制度もあります。生涯学習や研究調査などに、大学図書館所蔵の学術書をご利用ください。



城西大学水田記念図書館

<http://libopac.josai.ac.jp>

Tel: 049-271-7736

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1

Fax: 049-286-8126

(東武越生線川角駅下車 徒歩 10 分)

近代漫画の先駆者



城西大学水田記念図書館

Josai University Mizuta Memorial Library



「近代漫画の先駆者 北沢楽天」

北沢楽天（きたざわらくてん 本名 保次 1876-1955）は、明治 9 年、埼玉県大宮宿（現さいたま市）に北沢甚之丞、とみの四男として生まれ、間もなく父の勤務のため上京しました。青年時代は神奈川や東京で絵画の修業をし、明治 28 年(1895)に横浜のアメリカ人 E. B. ソーンの経営するボックス・オブ・キュリオス社に絵画記者として入社、その後、明治 32 年(1899)に才能を認められ福沢諭吉が創始した新聞「時事新報」に絵画部員として入社しました。明治 33 年 1 月から同紙に掲載された相撲スケッチは写真報道がまだなかった時代でもあり、大変好評を得ました。明治 35 年（1902）には同紙の日曜特集欄「時事漫画」も手掛けるようになり、当時「ポンチ絵」「おどけ絵」と呼ばれていたものが「漫画」と呼ばれるようになりました。29 歳の時には、日本初のカラー版漫画冊子「東京パック」を発行、社会、政治などの話題をユーモラスに描き多くの人々に読まれ、日本の職業漫画家第 1 号として活躍しました。今回の展示では、大正 11、12 年発行の時事新報附録日曜畫報をご覧ください。

参考文献

(1980)「楽天」 北沢楽天顕彰会

(1984)「清親・楽天と 10 人の風刺画家展：近代漫画をつくりあげた」太田記念美術館

さいたま市ホームページ

入手先<<http://www.city.saitama.jp/www/contents/1143352428731/index.html>>

(参照 2010-09-20)

※当館所蔵：時事新報附録日曜畫報大正 11 年 11 月～大正 12 年 7 月発行の 31 部

「婦人参政権」

(日曜畫報 第 94 号 大正 11 年 12 月 10 日)

婦人参政権の初生声を聞く、いまだ普通選挙さえも尚早を唱えられる折柄、鶯の初音と愛づる人、全く無関心の人、騒々しい籠の鳥よと眉をひそむる人など、さまざまなれど何れも籠の鳥の囀りと聴く心こそ同じけれ。

「加藤首相の腹の虫」

(日曜畫報 第 95 号 大正 11 年 12 月 17 日)

加藤首相は腸が悪いとかで内閣の運命を彼是噂されて居る。そこで一寸検鏡をして見たら病気というは腹の虫で此奴の居所次第で重態ともなり全快ともなるものと診断された。

「時の力」

(日曜畫報 第 97 号 大正 12 年 1 月 1 日)

文金の高島田振りの袂に匂いこぼる純な日本のむすめ姿は何時しか裾短き洋服姿と変わせたのも時の力！時の力は何物をも解決する国民の翹望する普通選挙もハヤ理論は尽きて居る今は時の力を待つばかりだ！

「商界の相撲」

(日曜畫報 第 99 号 大正 12 年 1 月 14 日)

春場所では勝ち誇った物価騰貴鬼閥が不景気閥におい詰められ土俵際でウンと堪えたが遂に投げ落された、物価閥はこれから陣容を改めウンと堅実な取り口で次の夏場所に不景鬼閥を土俵の砂に埋めてしまうだろう。

「落第したがる学生」

(日曜畫報 第 110 号 大正 12 年 4 月 8 日)

競馬法が議会を通過して馬券は復活されたが教育上悪影響があるとて学生には馬券を売らぬ事になった。処でどうして学生か否かを見分けるが問題だ。そこで馬券売場口で学力試験をして及第したら学生と見做して馬券を売らぬ事にする・・・そうなると学生は及第しては大変だと心配しながら試験を受けるだろう。